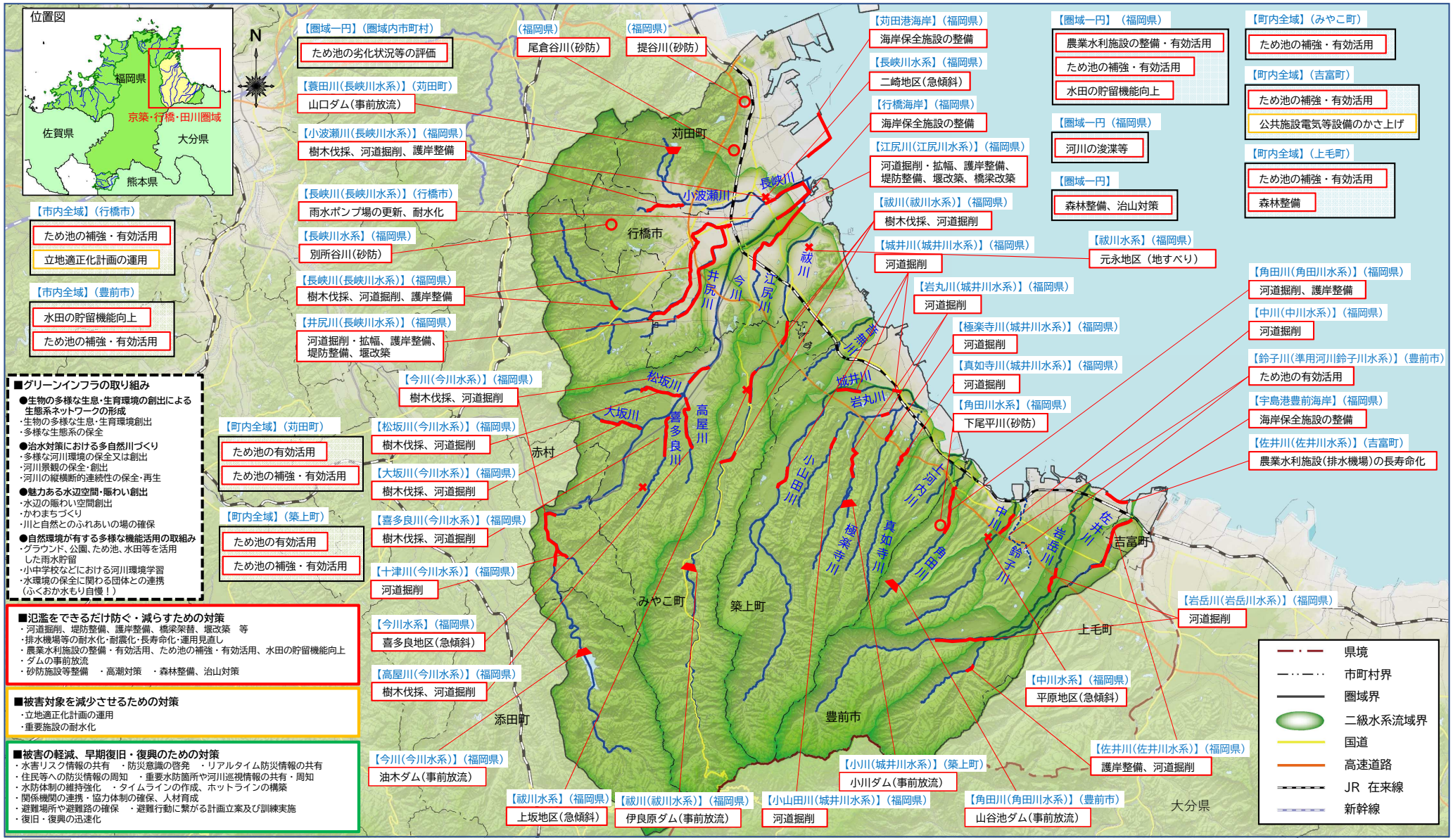
二級水系
流域治水プロジェクト

京築・行橋・田川圏域　流域治水プロジェクト【位置図】

～「うみ」「まち」「さと」「やま」が豊かな地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

福岡県

- 令和元年東日本台風では、全国各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、福岡県の京築・行橋・田川圏域においても事前防災対策を進める。
- 本圏域は、山地が海岸付近に迫り、限られた平地に人口・資産が集中しているうえ、河川がいくつも並行し流れている。洪水氾濫が発生すると甚大な被害が生じる本圏域の特性を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域治水の取り組みを推進し、浸水被害の軽減を図る。
- 自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの考えを取り入れ、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することにより、生態系ネットワークの形成に貢献しつつ、流域治水に取り組む。



■グリーンインフラの取り組み

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
・生物の多様な生息・生育環境創出
・多様な生態系の保全

●治水対策における多自然川づくり
・多様な河川環境の保全又は創出
・河川景観の保全・創出
・河川の縦横断的連続性の保全・再生

●魅力ある水辺空間・賑わい創出
・水辺の賑わい空間創出
・かわまちづくり
・川と自然とのふれあいの場の確保

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み
・グラウンド、公園、ため池、水田等を活用した雨水貯留
・小中学校などにおける河川環境学習
・水環境の保全に関わる団体との連携
（ふくおか水もり自慢！）

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
・河道掘削、堤防整備、護岸整備、橋梁架替、堰改築　等
・排水機場等の耐水化・耐震化・長寿命化・運用見直し
・農業水利施設の整備・有効活用、ため池の補強・有効活用、水田の貯留機能向上
・ダムの事前放流
・砂防施設等整備　・高潮対策　・森林整備、治山対策

■被害対象を減少させるための対策
・立地適正化計画の運用
・重要施設の耐水化

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
・水害リスク情報の共有　・防災意識の啓発　・リアルタイム防災情報の共有
・住民等への防災情報の周知　・重要水防箇所や河川巡視情報の共有・周知
・水防体制の維持強化　・タイムラインの作成、ホットラインの構築
・関係機関の連携・協力体制の確保、人材育成
・避難場所や避難路の確保　・避難行動に繋がる計画立案及び訓練実施
・復旧・復興の迅速化

：R7年3月までに完了

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。